

朝日地域コミュニティ 地域振興計画

朝日地域コミュニティ運営委員会

1. 計画の期間 概ね 10 年後の朝日の将来像を創造し、その実現に向けて様々な取り組みを行います。計画は状況の変化に適切に対応するため、必要に応じて見直します。具体的実施策は専門部会で検討し、直近 3 ヶ年の計画を策定します。
第 1 期計画期間 平成 24 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
2. 将来像 「地域への愛着と誇りを持って、いつまでも住みつづけたいまち 朝日」
スローガン 「e-とこ朝日」を創るためみんなで夢を耕そう
将来を担う子どもたちのために、緑豊かな自然と多くの歴史的遺産や伝統文化を活かし、地域への愛着と誇りを持って、いつまでも住みつづけたいまち「e-とこ朝日」を目指します。
3. 地域の現状 朝日地域は福井県の中央、越前平野の西端にあり、東部は日野川西岸の沖積低地が開けていますが、西部は海拔 200～600m の丹生山地が広がっています。中央部を流れる天王川は越知川、和田川を集めて日野川に注いでいる緑豊かな田園都市であります。産業は農林業と地場産業として繊維、眼鏡枠などがあります。また、マリンバ(木琴)の生産拠点として全国的に有名です。歴史的には 3000 年も昔から栄えた丹南地方の中心地で、弥生時代から古墳時代にかけて墳丘墓・古墳が約 200 以上存在しています。飛鳥・奈良時代になると越知山・朝日観音などが泰澄大師によって開かれました。また、織田信長等武将が愛好した幸若舞発祥の地でもあります。区の数 39 区、面積 45.47 km²、平成 24 年 10 月現在、世帯数 2,996 世帯、人口 9,614 人で越前町の約 4 割に当たります。高齢者は 2,325 人で高齢化率は 24.2%です。学校は小学校 3 校で児童数 556 人、中学校は 1 校で生徒数 320 人、保育所は 5 保育所で園児数 361 人です。まちづくりについては各種団体が活発に活動していますが、これら団体との連携を深め、よりよいまちづくりを図るために、誰もが参画できる朝日地域コミュニティ運営委員会を平成 24 年 3 月に立ち上げ活動を始めています。
4. 地域の課題
- ・まちづくりへの参加意識
平成 22 年の町民意識調査から住民同士の協力・町との協働が行われているとの回答は 29.9%で、そう思わないは 25.3%、あとはわからないと回答しています。協力・協働に対する意識はそれほど高くありません。この大きな要因は、社会構造の変化にともない、年齢各層の意識の隔たりが生じていることが考えられます。住民意識の高揚とまちづくり各種団体への参加体制の構築など広範囲な対応が求められています。
 - ・少子高齢化の進展と防災、見守り体制

小学校の児童数でみると平成 11 年 653 人で平成 24 年 566 人と 87 人減少しています。高齢者(65 歳以上)は平成 2 年 1,541 人、高齢化率は 17.5%で、平成 24 年は 1,784 人で 6.7 ポイント増え 24.2%になっています。国立社会保障・人口問題研究所によると 18 年後の 2030 年には越前町の人口は約 18 千人、高齢化率約 39%になると推定しています。現在、限界集落(人口の 50%以上が 65 歳以上の高齢者になり、社会的共同生活の維持が困難になった集落)が 4 集落あり、急激な少子高齢化に対応するため地域での見守り体制の強化が必要です。防災上は地形的に地域の中央を天王川が流れており河川の氾濫、また、山に囲まれているため土砂崩れ等の恐れがあります。風水害、地震および原子力(30km 圏内)に対する自助・共助の部分での自主防災組織強化等の防災体制の強化が求められています。

- ・歴史資源・伝統文化

3000 年前から栄えた歴史と文化のある信仰心の厚い地域で、泰澄大師の伝承、朝日観音、八坂神社、天王陣屋、幸若舞、願人坊、古墳群等があります。文化財の多さは県下 2 番目であり、しかも狭い地域に密集しています。この恵まれた資源を広く情報発信し、交流人口の増加を図ることが必要です。

- ・まちづくりのための活動拠点

まちづくりへの第一歩は話し合うこと、交流することから始まります。町民意識調査からも 28.4%の人が、地域の人々が気楽に集まれる場所をつくるのがまちづくりには必要と回答しています。特に地域の将来を担う若者や女性が気楽に集まり、相互の交流を図りながらまちづくりに生かしていくことが重要で、その拠点となる地区公民館、集会場や地域コミュニティセンター等の有効活用が求められています。

- ・子どもの地域社会への関わり

15 歳未満は 1,512 人で全体の約 16%で少子化の傾向にあり、ここ 3 年は 75 人/年と 100 人を下回っています。1 世帯当たり 3.2 人で核家族化が進み、昔なら祖父母などと一緒に生活し、多角的な人間関係を学習してきましたが、他人との人間関係がうまくつれないなどの指摘もあります。地域は生活の場であり、いろいろな人とのふれあいの場です。子どもたちは地域の人たちとの交流や関わりを通して、大人としての生活のルールや生き方を学んでいきます。外で遊ぶことが少なくなり、テレビを見たりゲームをしたりして過ごすことが多くなってきており、地域との関わりは少なくなってきています。特に下級生から上級生まで関わる異学年交流は、下級生の面倒を見るなどから社会性を育む上で大事になってきます。学校では実施しにくい縦割り活動等を地域が実施することが求められています。

5. 目標・方針

- | | |
|-----|--|
| 目 標 | 自然と共生した緑と花の潤いのあるまちづくり |
| 方針① | 将来の子どもたちに引き継いでいくために自然豊かな環境を守り育てる。 |
| 方針② | 花を育て愛する優しい人づくりによって、快適な生活環境と魅力あるまちづくりを推進する。 |
| 目 標 | 歴史・文化を守り、伝え、活かすまちづくり |
| 方針① | 朝日地域の豊かな歴史文化資源を活かして、みんなの憩いとなる場として整備し、交流人口の増加を図る。 |
| 方針② | 郷土の歴史文化の探訪など、住民が地域の歴史を知り、学び、誇りをもつ環境づくりを推進する。 |
| 目 標 | 子どもの健全な育成とみんなが健康なまちづくり |
| 方針① | 地域の人たちとの多様な触れ合いを通して地域に興味、関心を抱かせることにより、明日の朝日を担う子どもの未来を育てる。 |
| 方針② | 心身ともに健やかな生活が送れるよう健康について学び、スポーツ等を通して人と人との交流を深め、健康づくりに努める。 |
| 目 標 | お互いに助け合い安全で安心して住めるまちづくり |
| 方針① | 災害が発生した時に被害の拡大を防ぎ、住民同士が助け合い防災活動を組織的に行うことが最も重要であるため、自主防災組織の充実を図る。 |
| 方針② | 高齢者、要援護者等が地域での見守りや支え合いの中で、安心して暮らせるよう支援する。 |
| 目 標 | 地域の活力が芽生え、誰もが参加できる夢のある楽しいまちづくり |
| 方針① | 気軽に集まれる場をつくり、交流の輪を広げながら誰もが参加できる楽しいまちづくりを行う。 |
| 方針② | 豊かな自然環境を活かした産業を育成し、活力あるまちづくりを推進する。 |